

1. 視察目的

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により甚大な被害を受け、全町避難を経験した福島県双葉町の復興状況、特に避難指示解除後のまちづくりの現状と課題について学習することを目的とした。また、福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況と安全性に関する取り組みについて理解を深めることで、今後の加須市の防災・減災対策、地域振興策等に資する知見を得る。

2. 視察日時

令和 7 年 7 月 2 日(水)から令和 7 年 7 月 3 日(木)

3. 視察場所

- 東京電力廃炉資料館
- 福島第一原子力発電所(構内視察)
- 双葉町役場
- 東日本大震災・原子力災害伝承館
- 双葉町産業交流センター「F-BICC」

4. 視察内容

4-1. 東京電力廃炉資料館視察および福島第一原子力発電所構内視察(令和 7 年 7 月 2 日)

初日は東京電力廃炉資料館を訪れ、福島第一原子力発電所事故の経緯や廃炉作業の全体像について詳細な説明を受けました。資料館の見学後、専用のバスで福島第一原子力発電所の構内へ向かい、東京電力担当者より、現場での廃炉作業に関する説明を受けました。

廃炉作業の進捗状況:

各号機の燃料取り出しの進捗、特に 2 号機における燃料デブリ取り出しに向けた準備状況について説明を受けました。燃料デブリ取り出しの困難さと、それに向けた技術開発の重要性を

改めて認識しました。

汚染水対策と ALPS 処理水:

汚染水発生量の低減策、建屋内滞留水の処理状況、そして多核種除去設備(ALPS)による処理のプロセスについて説明を受けました。ALPS 処理水の海洋放出の現状と、その安全性確保のための取り組み(IAEA による確認など)について理解を深めました。海外の原発で排水する処理水よりも低濃度の処理水ととして海洋放出されていました。

敷地内の環境整備:

構内の放射線量の低下や、作業環境の改善が進んでいることを確認しました。約 4,000 人規模の作業員が日々作業に従事していることの重要性を認識しました。また、実際の視察時におけるモニタリングの結果について黄色で示しました。



敷地全体サーベイマップ <https://www.tepco.co.jp/decommission/data/surveymap/pdf/2025/f1-sv2-20250702-j.pdf>

長期的な視点:

30～40 年を要する廃炉作業の長期性、およびその途上における予期せぬ課題への対応の必要性について説明を受けました。津波による発電機の水没対策として、他の原発では、高台に配置および電源供給車も複数台設置しているとのことでした。

4-2. 双葉町役場における説明聴取(令和 7 年 7 月 3 日)

双葉町役場にて、町の職員の方より、以下の内容について詳細な説明を賜りました。

震災からの復興経緯:

全町避難から特定復興再生拠点区域の避難指示解除、そして現在の居住状況に至るまでの道のりについて説明を受けました。長期間にわたる避難生活が町民に与えた影響や、帰還に向けた町の取り組みについて理解を深めました。

現在の人口構成と課題:

震災前の人口と比較し、現在の居住人口が大幅に減少している現状、特に高齢化の進行が顕著であることが報告されました。若い世代の帰還促進や新たな移住者の誘致が喫緊の課題であることが強調されました。

まちづくり計画と進捗:

特定復興再生拠点区域における居住環境の整備(住宅整備、インフラ整備)、商業・産業の復興、医療・福祉・教育体制の確立に向けた取り組みについて説明を受けました。特に、新たな住民を迎え入れるためのインフラ整備やコミュニティ形成の重要性が示されました。

産業復興の現状:

中野地区復興産業拠点における企業誘致の状況や、新たな産業の創出に向けた取り組みについて説明がありました。一方で、震災前の基幹産業であった農業の再生には、いまだ多くの課題が残されていることも認識しました。

今後の展望:

帰還困難区域の避難指示解除に向けたロードマップや、町の持続的な発展に向けたビジョンについて説明があり、交流人口の拡大や情報発信の強化も重要な要素であることが示されました。

4-3. 東日本大震災・原子力災害伝承館視察(令和 7 年 7 月 3 日)

東日本大震災・原子力災害伝承館では、震災発生時の状況から、原子力災害による避難生活、そして現在の復興に向けた歩みまで、多角的な視点から学ぶことができました。

展示物や映像を通じて、当時の住民の苦悩や、失われた日常の重みを改めて実感するとともに

に、原子力災害がもたらした長期的な影響と、それに対する復興への強い意志を感じることができました。福島県立の伝承館が震災の記憶を後世に伝え、防災意識の向上に貢献していることを認識しました。ただし、被災時の対応として、私が所属している日本放射線技師会の会員がボランティアで被災地入りし、健常者、傷病者、ご遺体等のスクリーニング検査と除染を行いました。警察や消防など、関係する方々についての資料は無かったことが残念です。

4-4. 双葉町産業交流センター「F-BICC」視察(令和 7 年 7 月 3 日)

双葉町の玄関口に位置する「F-BICC」では、双葉町の新たな交流拠点としての役割を視察しました。

中野地区復興産業拠点として、周りに施設が無い中、フードコートや物産品販売コーナーを視察し、来訪者が立ち寄れる場所として機能させ、研修施設など、地域内外の交流を促進する機能も備わっており、先行的な場所として、町の産業復興や賑わいの創出に貢献していることを感じました。

5. 視察を通じて得られた所見

今回の双葉町および福島第一原子力発電所の視察を通じて、以下の点を深く認識しました。

復興の道のりの困難さと粘り強さ:

双葉町は、全町避難という未曾有の事態から、現在も復興への歩みを続けています。その道のりは決して平坦ではなく、多くの困難を乗り越えながら、着実に未来を切り開こうとする町の強い意志と、住民の方々の粘り強さを感じました。特に、人口減少と高齢化という喫緊の課題に対し、いかに若者を呼び戻し、新たな活力を生み出すが今後の鍵となると考えられます。

廃炉作業の重要性と国際的な取り組み:

福島第一原子力発電所の廃炉作業は、世界に類を見ない大規模かつ長期にわたる取り組みであり、日本の未来、さらには世界の原子力安全に直結する重要な課題であることを再認識しました。ALPS 処理水の海洋放出に関しても、安全性確保のための国際的な検証と、透明性の高い情報公開の重要性を改めて認識しました。

防災意識の再確認:

震災の記憶を風化させず、その教訓を後世に伝えることの重要性を再認識しました。加須市に

においても、今回の視察で得られた知見を基に、より一層の防災意識の向上と、実効性のある地域防災計画の策定・運用に努める必要があります。

地域活性化への示唆:

双葉町が新たな産業の創出や交流人口の増加に取り組んでいる姿は、加須市の地域活性化を考える上で多くの示唆を与えてくれました。既存の資源を活用しつつ、新たな魅力を創出し、関係人口を増やす努力の重要性を学びました。ただし、これからのまちづくりを光とするならば、まだ、帰宅困難地域等の廃墟となった以前の生活を伺える姿は影として存在しています。

6. 今後の議会活動への提言

今回の視察で得られた知見を活かし、加須市議会として以下の点について積極的に提言し、行政と連携して取り組んでまいります。

地域防災計画の見直しと訓練の強化:

震災の教訓を踏まえ、加須市の地域防災計画の実効性を高めるための見直しを継続的に行い、住民参加型の防災訓練を一層強化することを提言します。

情報公開とリスクコミュニケーションの推進:

災害発生時における正確かつ迅速な情報公開の重要性を踏まえ、市民に対するリスクコミュニケーションのあり方について検討を深めます。

地域活性化策への応用:

双葉町の事例を参考に、加須市の地域資源を活かした新たな産業創出や観光振興策について議論を深め、若者の定住・移住促進につながる施策を検討します。

災害伝承と教育の推進:

震災の記憶を風化させないための取り組みとして、学校教育における防災教育の充実や、地域における災害伝承活動の支援について提言します。

福島原発および双葉町行政視察報告書

7. 謝辞

今回の行政視察にご協力いただきました双葉町町議会議員の皆様、双葉町役場の皆様、東日本大震災・原子力災害伝承館の皆様、東京電力廃炉資料館の皆様、東京電力の皆様に心より感謝申し上げます。大変有意義な視察となりましたことをご報告いたします。

以上

加須市議会 新政会